

# ほろりさん

324 便所



## 大崎短歌会

兼題『鯉のぼり・自由』

大釜にちまきいっぱい煮立つ香や

新緑の向こう亡母の笑顔

今詠みし短歌忘れてはならじとて

真夜中に起きペンを握りぬ

風薫る宇宙に向ひて鯉のぼり

水面映りて夢ふくらまん

清し朝孫と見上げし鯉のぼり

今孫の丈一八五

清々し端午の空に風そよぐ

稚児を寿ぐ鯉幟はためく

短歌詠むノートのはずが体調の

悪しきことのみ書き連ねおり

川崎健一

穂園芳江

井元かず子

本後淑子

実吉安仁

原田葉子

裏を見せ表を見せて高々と

鯉のぼり舞う能登の港

能登地震はや五月なり鎮魂の

茶奉る出雲茶碗に

夫のため煮る味噌汁も今はなく

筍わらび少しく手折る

みどり風鯉のぼり舞ふ子どもの日

元気なればと卒寿の曾祖母

坂元つる子

上南紀子

山下海征

馬場みさ

## 薩摩郷句

兼題『んだも』

腰しゃ曲がっ んだも丁度

(唱) 年齢しゆ取り付けっ

亡母じゃらい

そっくい似ちよっ

西ノ園ひらり

名ん知れた 人じゃがんだも 家族葬

(唱) 流行じゃろかい 可哀相しごっあつ

遠矢耐多

多え免許 んだも惜ねか プータロー

(唱) 活かせば良かて 免許が泣ちよっ

諸木小春

うんだもち 婆は言通えちよい 初上京

(唱) 吃驚どえっ 先きな進まじ

上村牛歩

九面太鼓 うんだも三歳児 上手じ叩てっ

(唱) 大人並んな太鼓 どした上手かよ

藤元鬼瓦

上手じゃつち 褒めたやんだも まだ歌っ

(唱) 褒めたがぼっじゃ 止めみちや知たじ

満石うらら

句会い出っ んだもただ二句 帰路や泣っ

(唱) 選者が悪いと 心配や要らん

二見愚楽満

うんだもー 朝かい晩に 兄弟喧嘩

(唱) 周囲迷惑な 騒がらしもんじゃ

上窪小絵

うんだもー スリーエルじゃが また肥えっ

(唱) 少った瘦せんな 血圧ち悪いど

長重リリー

老夫婦 んだもこらよち 今日もゲート

(唱) 重び尻ゆ上げっ 二人で励っ

北村虎王